

- 「①公共交通にアクセスしやすい区域」の人口カバー率は、**概ね維持している。**
 「②R7年度の公共交通利用者数」や「③公共交通機関を利用する市民の割合」は、コロナ前の令和元年度と比較すると減少しているものの、**回復傾向にある。**
 「④交通事業者の収支率」は、**バス事業は回復傾向。**一方、**鉄軌道の収支率は若干悪化した。**
 「⑤利用者1人あたりの公共交通への公的資金投入額」は、令和6年度実績と比較して**増加した。**

数値目標	基準値 (計画策定当初)	計画中間年度 (R2年度)	R6年度 (実績値)	R7年度 (実績値)	目標値
①公共交通にアクセスしやすい区域の人口カバー率の維持					
数値目標 1 公共交通にアクセスしやすい区域の人口カバー率 ※アクセス可能地域内人口／熊本市域人口	83.9% (H27年度)	85.6%	85.8%	85.7%	85.6%
②公共交通利用者数の増加					
数値目標 2 公共交通機関の年間利用者数 ※各公共交通機関の利用者数の合計値 ※目標値には新たなコミュニティ交通を含む	55,436千人 (H27年度) (H26年度実績)	53,216千人 (R元年度実績)	50,950千人 (R5年度実績)	51,725千人 (R6年度実績)	56,000千人 (R7年度実績)
③公共交通機関を利用する市民の割合の増加					
数値目標 3 目的地に行くときに公共交通機関を利用する市民の割合 ※毎年度実施する市民アンケートの調査の結果。 ※週に1回以上利用、または月に1回以上利用と回答した人の割合	47.5% (H27年度)	31.3% ※R3.1/5～2/5	33.4% ※R7.1/20～2/7	33.6% ※R8.1/19～2/6 (速報値)	50.0%
④公共交通の収支率の向上					
数値目標 4-1 公的資金が投入されている公共交通の収支率 (バス) ※バス事業者(5社)の収入額／支出額	—	63.9% (R元年度実績)	62.0% (R5年度実績)	64.2% (R6年度実績)	63.9% 以上 (R7年度実績)
数値目標 4-2 公的資金が投入されている公共交通の収支率 (鉄軌道) ※鉄軌道(電鉄・市電)の収入額／支出額	—	93.8% (R元年度実績)	81.8% (R5年度実績)	76.6% (R6年度実績)	93.8% 以上 (R7年度実績)
⑤利用者1人当たりの公的資金投入額の縮減					
数値目標 5 利用者1人当たりの公共交通への公的資金投入額 ※(バス(5社)、鉄軌道(電鉄・市電)、コミュニティ交通の公的資金投入額)／年間利用者数 ※公的資金は、路面補修等設備投資、災害分(コロナ含む)を除く運行に関する補助	—	21円／人 (R元年度実績)	30円／人 (R5年度実績)	32円／人 (R6年度実績)	21円／人以下 (R7年度実績)